

岐阜市スポーツ推進計画 2023-2032



こころとからだで楽しむ
『スポーツシティぎふ』

令和5年3月

岐 阜 市

ごあいさつ



スポーツには、人々のこころとからだを健康で豊かにする力があります。しかしながら、前計画期間中には、新型コロナウイルス感染拡大によりスポーツ活動が制限されたことに伴う心身の健康課題などが浮き彫りになりました。一方、東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会は、本市にゆかりのあるアスリートの活躍もあり、我々に大きな夢と感動を与えてくれました。これら2つの出来事により、これまで以上に「スポーツの根源的な価値」が再認識されることとなりました。

こうした状況の中、前計画が令和5年3月末で計画期間の満了を迎えますことから、国の「第3期スポーツ基本計画」を踏まえ、「岐阜市スポーツ推進計画2023-2032」を策定いたしました。本計画は、市民・各種団体・行政など各主体が役割を担い、協働することによって本市のスポーツ推進を実現していくものです。市民の皆さま一人ひとりが主体性を持ち、生涯にわたってスポーツに親しむことで、心豊かな生活を創出し、地域社会を活性化させ、魅力ある岐阜のまちづくりを「オール岐阜」で推進していきます。市が掲げる方針である「こどもファースト」においては、幼少期からスポーツを通して仲間づくりや生きがいづくりを実現し、生涯スポーツの礎を育みます。また、地域のプロスポーツ事業や本市出身のトップアスリートの活躍は、「シビックプライドの醸成」をもたらします。今後も本市ならではの「スポーツのあり方」を模索し、発展させるとともに、スポーツがもたらす多様な価値を観光、教育、国際交流など関連分野の発展に活かし、ぎふの未来のまちづくりへと寄与していきます。

最後に、本計画の策定にあたりまして、岐阜市のスポーツ振興に対して真摯に向き合い、主体的かつ熱心にご審議とご助言を賜りました岐阜市スポーツ推進計画検討委員会の委員の皆さまをはじめ、実態調査やパブリックコメントなどを通じて貴重なご意見を賜りました市民の皆さま、関係機関等の皆さまに対して、心より感謝申し上げます。

令和5年(2023)3月

岐阜市長 柴橋正直

岐阜市スポーツ推進計画 2023-2032

— ころとからだて楽しむ『スポーツシティぎふ』 —

第1章 計画の概要

1 計画策定の趣旨	2
2 計画の位置付け	3
3 計画期間	5

第2章 本市のスポーツを取り巻く環境と課題

1 前計画の総括	8
2 本市の人口推移	9
3 市民意識調査アンケートの結果と考察	10
4 本市の現状における課題・施策の方向性	14

第3章 計画のコンセプト ～目指す姿～

1 基本理念	16
2 施策体系	17
3 成果目標	18

第4章 施策の展開

1 基本方針（1）スポーツ参画の推進	20
2 基本方針（2）持続可能な競技力の向上	25
3 基本方針（3）地方創生とまちづくり	31
4 基本方針（4）スポーツ環境の整備	34

第5章 計画の推進に向けて

1 各主体の役割	38
2 推進体制	39
3 計画の評価	40

資料編	41
-----	----

01

第1章 計画の概要

- 1 計画策定の趣旨
- 2 計画の位置付け
- 3 計画期間

第1章 計画の概要

1 計画策定の趣旨

岐阜市では、平成25年(2013年)に「岐阜市スポーツ推進計画」(以下、前計画という)を策定し「みんな生き生き『元気・健幸スポーツシティぎふ』」の基本理念のもと、さまざまな施策を展開してきました。また、平成31年(2019年)には、国の「第2期スポーツ基本計画」が策定されたことに伴い、地域の実態・基本方針に基づく各施策を見直すなど、前計画を改訂しました。

この前計画期間中には、2020年から世界規模で急速に拡大した「新型コロナウイルス感染症」と、その影響で1年延期となった「東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会」という2つの大きな出来事がありました。コロナ禍においては、スポーツに取り組む機会の喪失による心身への影響が顕在化したことで、スポーツが我々の生活や社会に活力を与えるなど優れた効果を持っていることが改めて示されました。また、東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会では、新たに採用された種目を含め多種多様なスポーツが高い関心と新鮮さを持って受け入れられ、仲間同士で励まし合う姿や対戦相手が互いのプレーをたたえあう姿といった光景を目の当たりにし、世界中の人々は「スポーツをみる」ことを通じてスポーツの持つ力、そのすばらしさを改めて確認することができました。これらの2つの大きな出来事から「**スポーツの価値**」が再確認されることとなりました。

そうした中、前計画が令和5年3月末で計画期間の満了を迎えることから、これまでの取り組みの総括や社会情勢の変化、多様化するライフスタイル等の状況を踏まえ、10年後のスポーツのあり方を見据えて、総合的な推進を図るための基本計画として、「岐阜市スポーツ推進計画2023-2032」(以下、本計画という)を策定しました。



2 計画の位置付け

国のスポーツ基本法第10条第1項には、「(国の) スポーツ基本計画を参酌して、その地方の実情に即したスポーツの推進に関する計画を定めるよう努めるものとする。」と規定されています。本計画は、この規定に基づく地方スポーツ推進計画です。また、本計画は国の「第3期スポーツ基本計画」を上位計画とするとともに、岐阜県の「第2期清流の国ぎふスポーツ推進計画」とも方向性を合わせながら策定しています。

本計画では、本市のスポーツ関連施策の現状・課題を分析するとともに、近年になって注目されているスポーツの意義・効果にも着目しつつ、これらを勘案しながら、本市におけるスポーツ推進の基本理念を示し方向性を明らかにするとともに、これらを実現するためのスポーツ推進施策を定めるものです。

また、本市の上位計画である「**岐阜市未来のまちづくり構想**」に示されている下記の事項についても整合性を図っていきます。

《子どもと教育を中心とするまちづくり》

- ・生涯にわたって誰もが文化芸術やスポーツを楽しみ、豊かな感性と生きる力を育むとともに、心身ともに健康で生活の質を高め続けられる取り組みを推進

《人を魅了し、交流を生み出すまちへ》

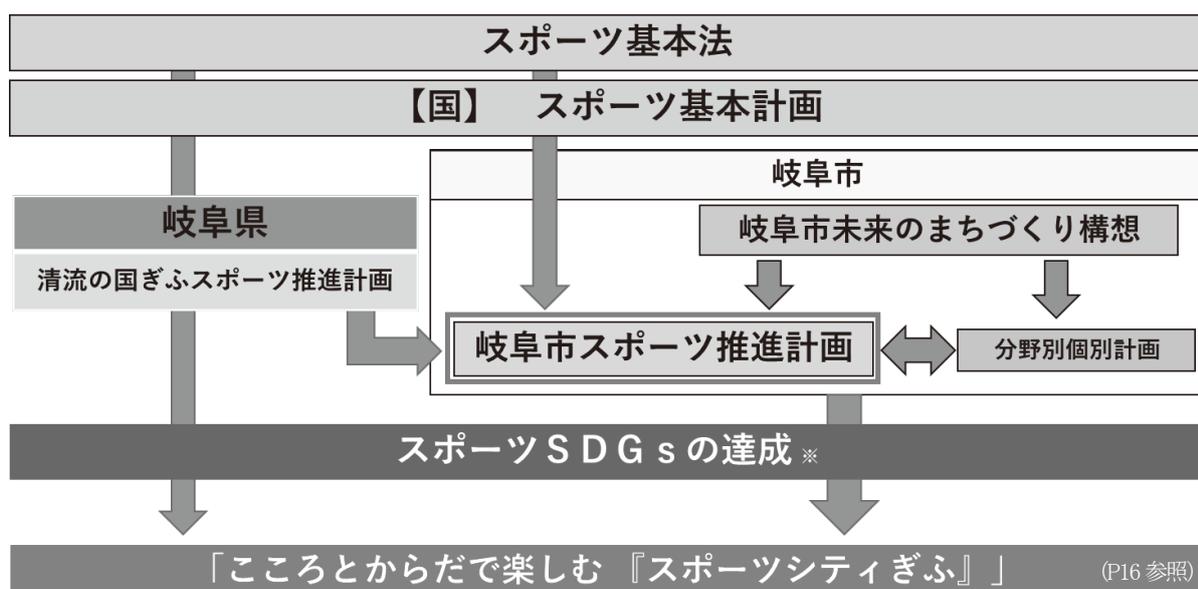
- ・地元プロスポーツの活性化や競技スポーツの振興をはじめ、市民の誰もが身近な場所で気軽にスポーツができる環境整備等を通じて、交流機会の増加を図るとともに、スポーツコンベンションや市外からの誘客を推進
- ・海外都市との文化・スポーツを通じた市民交流や観光・農商工関連の産業をはじめとする経済交流を促進し、本市の魅力発信とグローバル人材の育成を図る

《人生100年時代、伸ばそう健康寿命》

- ・健康を増進するために望ましい身体活動・運動の習慣づくりへの支援を充実

出典：岐阜市未来のまちづくり構想

【計画の位置付け (イメージ図)】



※ スポーツSDGsとは、スポーツ庁がSDGsの達成にスポーツで貢献していくことを掲げ、スポーツの持つ力を使って、SDGsの認知度向上、ひいては、社会におけるスポーツの価値をさらに向上させるための取り組みです。

《スポーツSDGsの達成》

スポーツ庁においては、SDGsの達成にスポーツで貢献していくこととしており、スポーツが持つ「人々を集める力」や「人々を巻き込む力」を使って、SDGsの認知度向上、ひいては社会におけるスポーツの価値の更なる向上に取り組んでいます。

また、国連は「スポーツは持続可能な開発における重要な鍵となるものである。」と、スポーツが世界的な課題に取り組んでいくために必要不可欠なツール、つまりSDGsの17のゴール（目標）すべての達成に向けた重要かつ有効な手段であるとしています。

《本計画におけるSDGsの取り組み》

本計画は、SDGsが示す持続可能な社会や共生社会の実現に向けた国際的な取り組みにおける17のゴールの内、「3 すべての人に健康と福祉を」「4 質の高い教育をみんなに」「8 働きがいも経済成長も」「11 住み続けられるまちづくりを」の目標達成に資する取り組みであるとともに、他のゴール・側面と合わせて統合的な課題解決を図る全市的な取り組みの一環となるものです。

【コラム①】SDGsと本市の関係性

内閣府は、平成30年度から地方自治体のSDGs達成に向けた優れた取り組みを提案した都市を「SDGs未来都市」、その中でも特に先導的な取り組みを「自治体SDGsモデル事業」として選定しています。

本市は、令和3年度の「SDGs未来都市」及び「自治体SDGsモデル事業」に選定されました。

このことを契機とし、本市はSDGsを原動力とした持続可能な都市づくりの取り組みに注力しています。

SDGsアイコン

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS



出典：国際連合広報センター

【本計画に関連する取り組み目標（ゴール）】

ゴール	本計画で関連する取組み
 ゴール 3 すべての人に健康と福祉を	<ul style="list-style-type: none"> ・スポーツ活動による健康保持増進 ・スポーツボランティアを通じた福祉活動
 ゴール 4 質の高い教育をみんなに	<ul style="list-style-type: none"> ・児童・生徒の心身育成 ・学校体育・地域のスポーツ振興による青少年の育成
 ゴール 8 働きがいも経済成長も	<ul style="list-style-type: none"> ・プロスポーツ振興による地域活性化
 ゴール 11 住み続けられるまちづくりを	<ul style="list-style-type: none"> ・地域独自のスポーツ文化の発展・振興

3 計画期間

本計画は、令和5年度(2023年度)から令和14年度(2032年度)までの10年間を計画期間とします。

なお、本計画は施策の進捗状況、社会情勢、国の政策動向の変化等に応じて、中間年を目処に必要な見直しを実施する予定です。

各施策の数値目標や指標項目については、中間目標や最終目標を見据えて段階的に設定し、必要な見直しを実施するには目標設定も柔軟に対応していきます。

計画期間

2023～2032年度《10年間》

【参考】関連計画スケジュール

年度(西暦)		2022	2023	2024	2025	2026	2027	2028	2029	2030	2031	2032	2033	
上位・ 関連 計画	【国】スポーツ基本計画	第3期スポーツ基本計画(2022～2026)												
	【県】清流の国ぎふスポーツ推進計画	第2期清流の国ぎふスポーツ推進計画(2022～2026)												
	【市】岐阜市未来のまちづくり構想	岐阜市未来のまちづくり構想(2022～2040)												
本 計 画	岐阜市スポーツ推進計画						岐阜市スポーツ推進計画(2023～2032)							
							見直し							

【本計画期間中の主要なスポーツイベント】

国内外で開催される世界規模の国際大会などの主要なスポーツイベントを契機とした、アスリート支援による競技力向上や大会気運の醸成などを通して、市民のスポーツへの関心、参画を促していきます。

〈令和5年3月現在〉

開催年	大会名	開催地
2023年	第19回アジア競技大会	中国(杭州)
	第4回アジアパラ競技大会	
	世界陸上競技選手権大会	ハンガリー(ブタペスト)
	FIBAバスケットボールワールドカップ2023	日本/インドネシア/フィリピン
2024年	第33回オリンピック競技大会	フランス(パリ)
	パリ2024パラリンピック競技大会	
	神戸2024世界パラ陸上競技選手権大会	日本(兵庫)
2025年	世界陸上競技選手権大会	日本(東京)
2026年	第25回オリンピック冬季競技大会	イタリア(ミラノ/コルティナダンペッツォ)
	ミラノ・コルティナ2026パラリンピック冬季競技大会	
	2026 FIFAワールドカップ	カナダ/メキシコ/アメリカ
	第20回アジア競技大会 第5回アジアパラ競技大会	日本(愛知/静岡/岐阜/京都/大阪/兵庫)

02

第2章

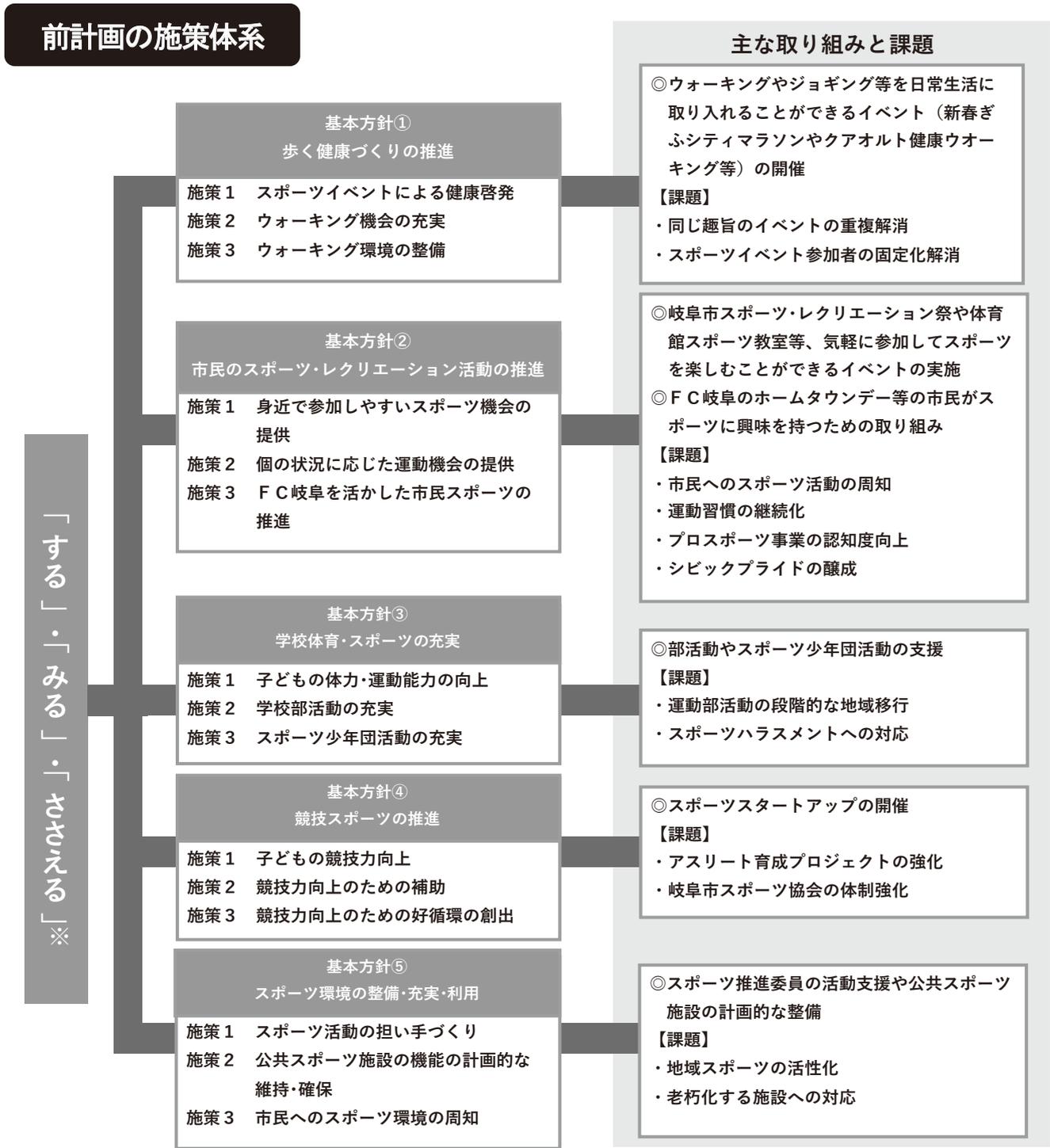
本市のスポーツを取り巻く環境と課題

- 1 前計画の総括
- 2 本市の人口推移
- 3 市民意識調査アンケートの結果と考察
- 4 本市の現状における課題・施策の方向性

第2章 本市のスポーツを取り巻く環境と課題

1 前計画の総括

前計画では、スポーツを通じて生涯にわたって心身ともに豊かな生活を実現することができることを願い、「みんな生き生き『元気・健幸スポーツシティぎふ』」を基本理念とし、5つの基本方針のもと施策の実現に取り組んできました。



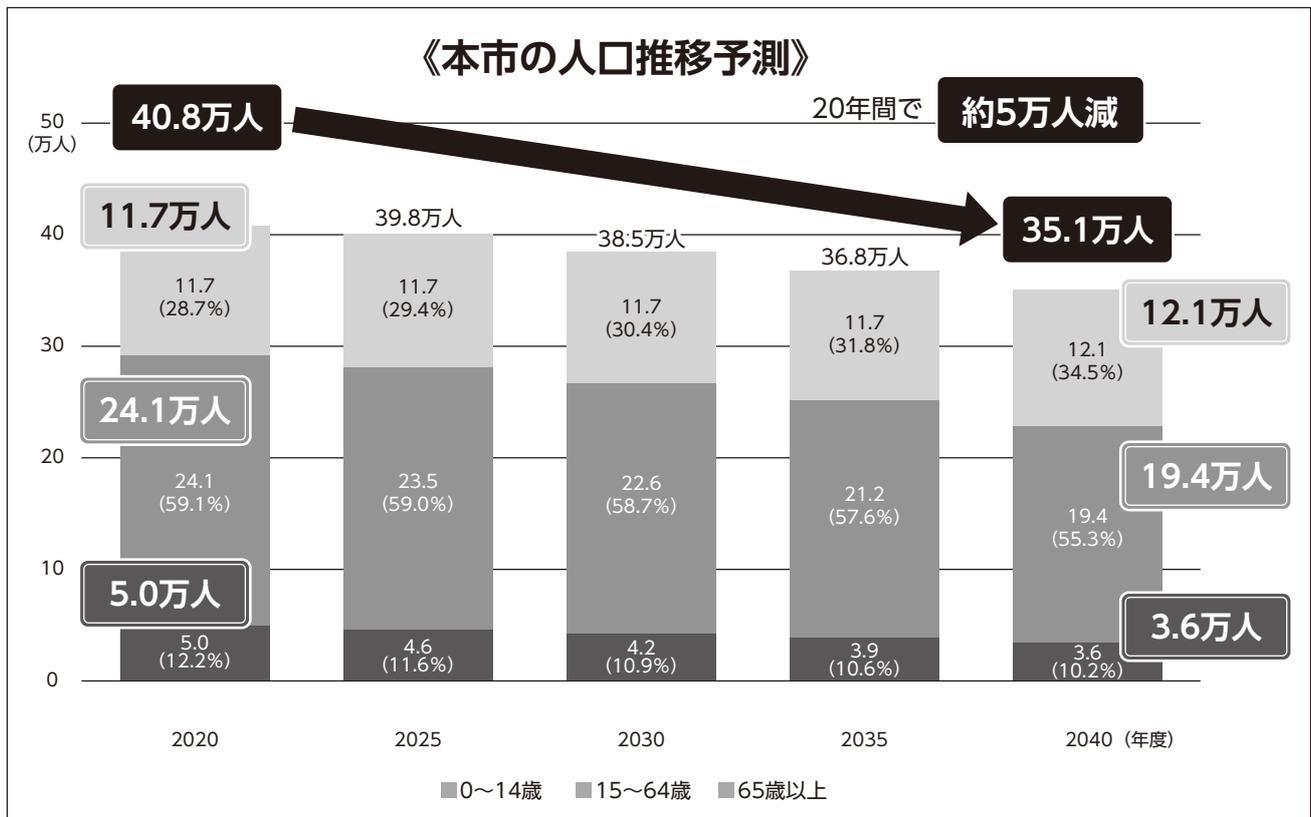
※ 「する」・「みる」・「ささえる」

国の「第2期スポーツ基本計画」から示され、スポーツに3つの視点から参画できるように、スポーツに関わる機会を創出します。

- ・スポーツを「する」…身体を動かして運動やスポーツを実施し、スポーツの魅力ややりがいを体感します。
- ・スポーツを「みる」…スポーツを観戦したり、スポーツの情報に触れることで、スポーツに親しみ、感動を共有します。
- ・スポーツを「ささえる」…スポーツを指導したり、スポーツボランティアに携わったりすることで、人とのつながりや絆を育みます。

2 本市の人口推移

【本市の人口推移予測】



出典：岐阜市未来のまちづくり構想

上段の表で年齢別の推移をみると、0～14歳人口、15～64歳人口が減少傾向にある一方で、65歳以上人口の割合は増加し続けています。こうした本市の人口推移の状況からも、高齢者の心身機能の維持・向上や健康的に生活できる「健康寿命」の延伸のための運動習慣の定着など、スポーツ機会の充実がより重要となつてきており、少子高齢化という課題に対応した施策を展開していく必要があります。

このことからライフステージ¹⁾別にスポーツを親しむ、楽しむ施策を検討していきます。

1) **ライフステージ**：人の一生を、幼少年期・青年期・壮年期・老年期などに区切ったそれぞれの段階。本計画では、幼児・青少年・成人・高齢者に分けて施策を展開していきます。

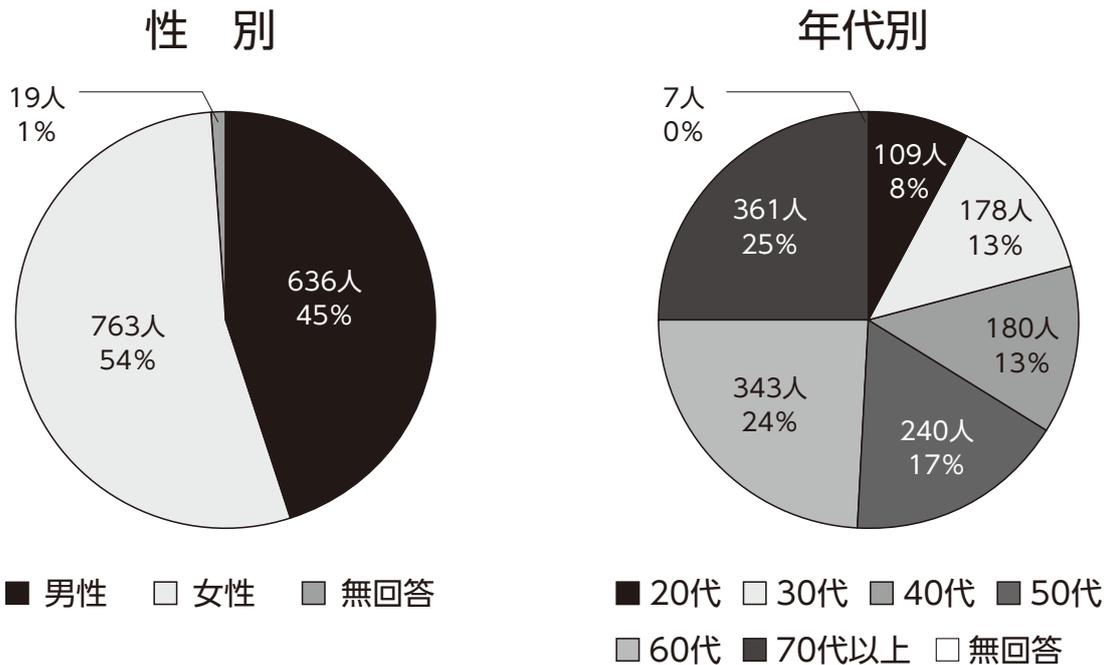
3 市民意識調査アンケートの結果と考察

本計画を策定するにあたり、下記概要にて市民意識調査アンケートを実施し、この結果から岐阜市の現状を把握するとともに課題を洗い出し、本市のスポーツ推進に必要な施策について考察を行いました。

【実施概要】

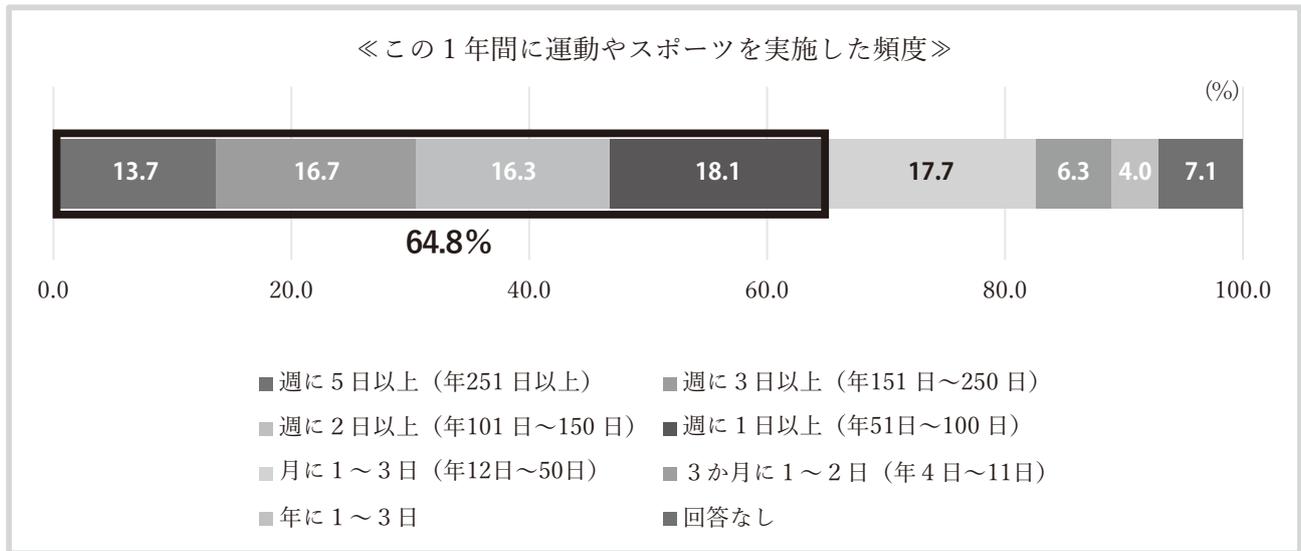
調査形式	市内在住者へ郵送およびwebアンケート
設問数	38問
対象	市保有データ男女・年代別に無作為抽出 4,000人
回収数	有効回答数 1,418件
調査期間	令和3年5月19日～6月1日 14日間

【回答属性】



アンケート回答

①この1年間に運動やスポーツを実施した頻度



週に1日以上運動・スポーツをしていると答えた人の割合は64.8%となっており、国の「第2期スポーツ基本計画」に基づき設定した目標値（65%）に近い数値となっています。

《この1年間に運動やスポーツを実施した年代別の頻度》

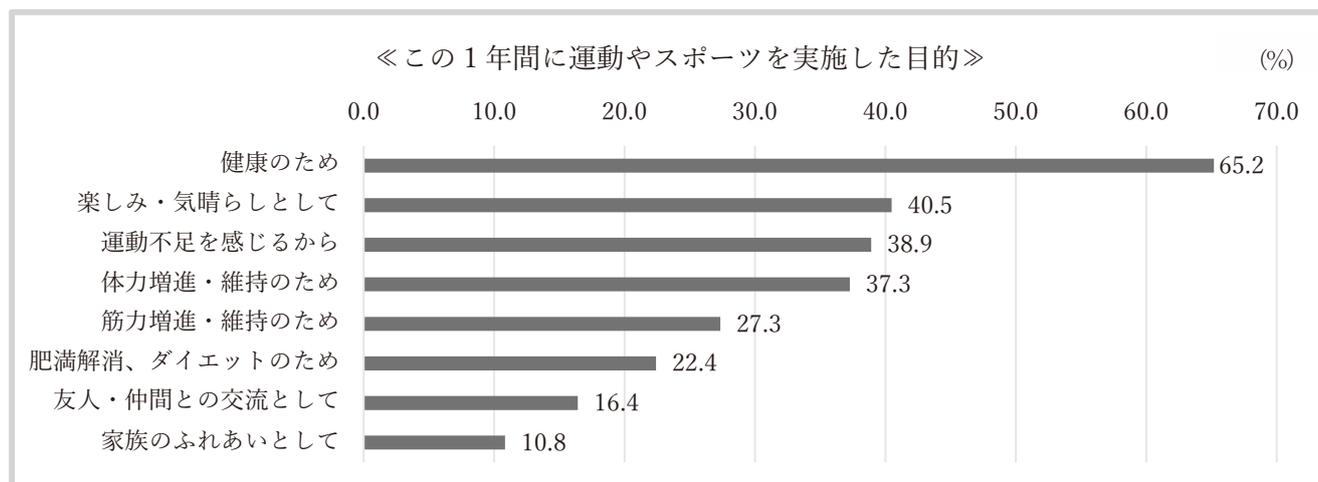
	N	週に5日以上 (年251日以上)	週に3日以上 (年151日~250日)	週に2日以上 (年101日~150日)	週に1日以上 (年51日~100日)	月に1~3日 (年12日~50日)	3か月に1~2日 (年4日~11日)	年に1~3日	回答なし
全体	1,218	13.7	16.7	16.3	18.1	17.7	6.3	4.0	7.1
20代	102	7.8	18.6	19.6	13.7	15.7	13.7	4.9	6.0
30代	156	2.6	8.3	14.1	23.7	30.8	9.6	5.1	5.8
40代	155	9.7	7.1	15.5	20.6	24.5	11.6	5.2	5.8
50代	198	8.1	17.2	14.1	21.2	19.2	7.6	7.1	5.5
60代	293	18.8	14.0	20.8	19.5	15.0	3.8	2.0	6.1
70代以上	314	22.0	27.4	14.0	12.1	10.2	1.3	2.5	10.5

スポーツを実施した頻度を年代別に見ると、「週に1日以上」と答えた人は30代が23.7%と最も高く、70代以上が12.1%と最も低くなっています。一方で、「週に5日以上」と答えた人は70代以上が22.0%と最も高く、30代が2.6%と最も低くなっています。

スポーツ実施率

過去1年間に運動・スポーツを一定回数行った人が全標本に占める割合。本調査では、年1回以上や週1回以上の運動・スポーツ実施率を算出しています。

②この1年間に運動やスポーツを実施した目的（複数回答可）



スポーツを実施した目的は、「健康のため」と答えた人が一番多く65.2%となっており、次いで「楽しみ・気晴らしとして」が40.5%、「運動不足を感じるから」が38.9%となっています。

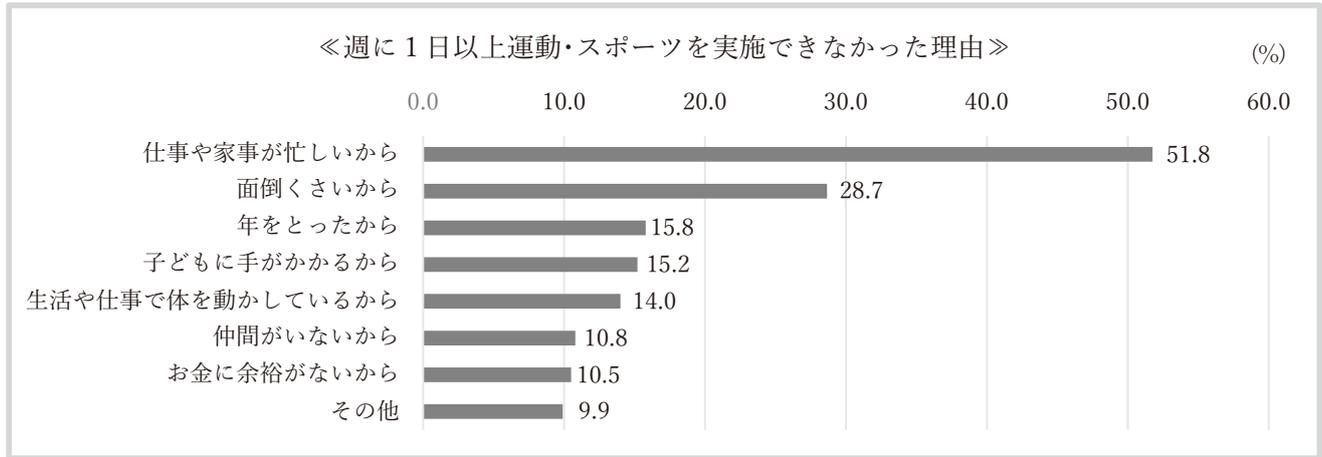
「この1年間に運動やスポーツを実施した年代別の目的」

(%)

	N	健康のため	楽しみ・気晴らしとして	運動不足を感じるから	体力増進・維持のため	筋力増進・維持のため	肥満解消、ダイエットのため	友人・仲間との交流として	家族のふれあいとして
全体	1,218	65.2	40.5	38.9	37.3	27.3	22.4	16.4	10.8
20代	102	49.0	48.0	28.4	34.3	22.5	22.5	21.6	11.8
30代	156	55.1	45.5	35.9	34.0	20.5	26.9	10.9	26.3
40代	155	56.8	41.3	41.3	31.0	25.8	29.0	12.3	21.9
50代	198	61.6	42.4	39.4	33.3	24.7	26.8	15.7	8.1
60代	293	71.7	38.9	40.3	41.0	31.1	21.5	14.3	3.8
70代以上	314	74.8	33.8	40.4	40.8	29.3	14.6	21.3	5.1

スポーツを実施した目的を年代別に見ると、「健康のため」と答えた人は70代以上が74.8%と最も高く、20代が49.0%と最も低くなっています。「楽しみ・気晴らしとして」と答えた人は20代以上が48.0%と最も高く、70代が33.8%と最も低くなっています。

③週に1日以上運動・スポーツを実施できなかった理由（複数回答可）



スポーツを実施できなかった理由は、「仕事や家事が忙しいから」と答えた人が一番多く51.8%となっており、次いで「面倒くさいから」が28.7%、「年をとったから」が15.8%、「子どもに手がかかるから」が15.2%となっています。

「週に1日以上運動・スポーツを実施できなかった年代別の理由」

	N	仕事や家事が忙しいから	面倒くさいから	年をとったから	子どもに手がかかるから	生活や仕事で体を動かしているから	仲間がいないから	お金の余裕がないから	その他
全体	342	51.8	28.7	15.8	15.2	14.0	10.8	10.5	9.9
20代	35	62.9	34.3	-	8.6	5.7	2.9	17.1	2.9
30代	71	73.2	32.4	2.8	46.5	8.5	16.9	9.9	7.0
40代	64	62.5	35.9	7.8	23.4	4.7	9.4	9.4	9.4
50代	67	50.7	34.3	16.4	1.5	19.4	11.9	11.9	17.9
60代	61	32.8	18.0	31.1	-	21.3	9.8	14.8	9.8
70代以上	44	20.5	13.6	38.6	-	25.0	9.1	-	9.1

スポーツを実施できなかった理由を年代別に見ると、「仕事や家事が忙しいから」と答えた人は30代が73.2%と最も高く、70代以上が20.5%と最も低くなっています。「面倒くさいから」と答えた人は40代以上が35.9%と最も高く、70代が13.6%と最も低くなっています。

4 本市の現状における課題・施策の方向性

前計画の総括や市民意識調査アンケートの結果・考察からも傾向がみられるように、岐阜市の「現状における課題」「施策の方向性」は下記のとおり挙げられます。

現状における課題	施策の方向性
前計画の総括より	
同じ趣旨のイベントの重複解消	事業・施策の見直し、施策対象の明確化
スポーツイベント参加者の固定化解消	新規参加者への広報活動の拡充
市民へのスポーツ活動の周知	広報活動の拡充、SNSの有効活用
運動習慣の継続化	健康増進の取り組み強化、エビデンスに基づく施策展開
プロスポーツ事業(F C 岐阜等)の認知度向上	プロスポーツ観戦機会の創出
シビックプライドの醸成	トップアスリートによる地域還元
スポーツハラスメントへの対応	クリーンでフェアな精神の涵養
アスリート育成プロジェクトの強化	補助支援事業による競技力向上
パラスポーツの認知度や実施率のデータ欠如	パラスポーツの現状把握と広報活動
地域のスポーツ事業活性化	プロスポーツ事業振興、スポーツツーリズム推進
老朽化する施設への対応	個別施設計画に基づく計画的な点検・保全
市民意識調査アンケートの結果と考察より	
競技種目(球技・武道等)のスポーツ実施率向上	イベントや教室等のスポーツ実施機会の創出
「働く世代」のスポーツ実施率向上	ターゲットを明確にした施策の実施
スポーツ観戦率向上	プロスポーツ事業のノウハウを活用したPR
スポーツボランティア参加者の増加	各種スポーツ団体との連携強化
新たな課題	
教員の働き方改革に伴う部活動の地域移行	地域スポーツ団体の運営基盤強化、団体間の連携強化
岐阜市スポーツ協会の体制強化	ガバナンス改革・経営力強化

03

第3章

計画のコンセプト ～目指す姿～

- 1 基本理念
- 2 施策体系
- 3 成果目標

第3章 計画のコンセプト ～目指す姿～

1 基本理念

市のスポーツ推進に関する基本的なあり方や意義・目的。

こころとからだで楽しむ『スポーツシティぎふ』

“スポーツを楽しむこと”がスポーツの価値の根源であるということを認識した基本理念

人はスポーツに親しみ、楽しむ（「する」）ことにより、“からだ”を動かす「充実感」や目標の「達成感」が得られますし、人と人とのつながりといったこころの「連帯感」や健康であることの「充足感」「幸福感」を感じることができます。

また、目標に向かって努力を重ね、全力で競技に挑むアスリートの真摯な姿に触れることは、人の心に大きな感動を与えます。プロスポーツのハイレベルな真剣勝負、トップアスリートの躍動する姿、大規模なスポーツイベントに触れる（「みる」「ささえる」）ことで、人は「スポーツの根源的な価値」を認識し、夢と感動は心豊かな生活の創出に寄与します。

前計画期間中では、新型コロナウイルス感染拡大によるスポーツ活動の制限や東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会によるスポーツが人々に与えた感動が、人々のこころとからだを健康で豊かにするスポーツの持つ力とすばらしさを改めて認識することになりました。本計画では、スポーツSDGsの達成に取り組むとともに、前計画の総括や市民意識調査アンケート結果から施策の方向性を定め、課題解決に取り組めます。

このことから基本理念として「こころとからだで楽しむ『スポーツシティぎふ』」を標榜し、スポーツを「する」「みる」「ささえる」機会を通して、「スポーツの持つ力」を最大限享受し、「つくる／はぐくむ」「あつまり、ともに、つながる」「誰もがアクセスできる」という新たな視点も踏まえながら、心身ともに健康で生活の質を高め続けられる取り組みを推進していくことで、人と人とのつながり、絆を大切に、誰もが心身ともに健康で心豊かな暮らしを育むことができる社会の実現を目指します。

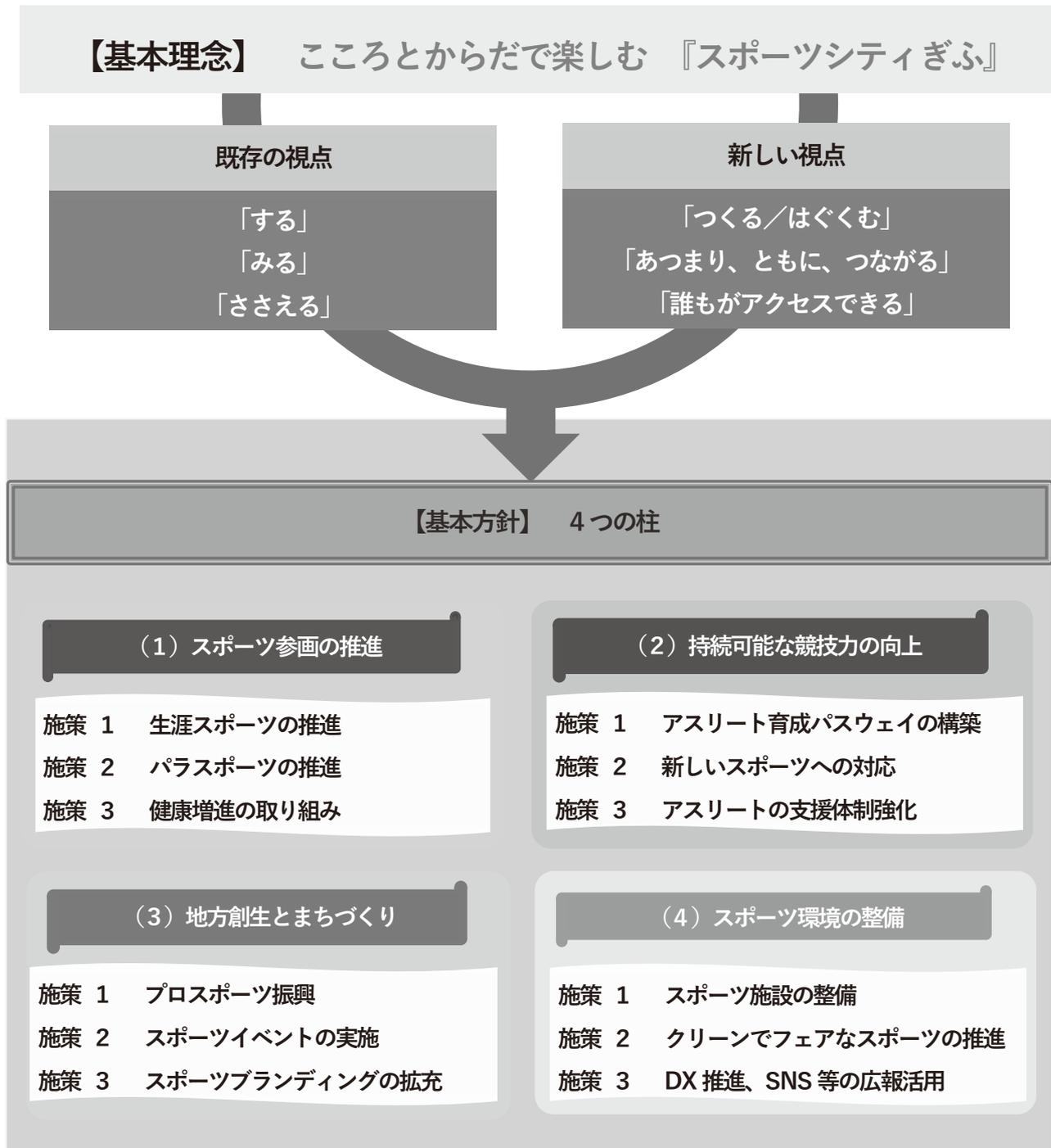
【新たな3つの視点】

国の「第2期スポーツ基本計画」で掲げられた既存の3つの視点「する」「みる」「ささえる」を踏襲するとともに、次の「第3期スポーツ基本計画」で掲げられている下記の新たな3つの視点も踏まえて、新たな施策の方向性に反映させます。

視点	新たな施策の方向性
「つくる／はぐくむ」	社会情勢や個々人の置かれた状況に応じて、既存のスポーツの枠組みや考え方のみにとらわれることなく、それらを不断に柔軟に見直し・改善し、最も適切・有効な、あるいは個々の状況等に柔軟に応じた方法やルールを考え出したり、創り出したりすること
「あつまり、ともに、つながる」	既存の区別や整理の仕方を所与の前提として固定的に捉えるのではなく、一人一人が置かれた状況や事情、特性等も踏まえ、様々な立場にある人々誰もが「ともに」活動し、「つながり」を感じながらスポーツを楽しめる社会の実現を目指し、環境の整備や機運の醸成をすること
「誰もがアクセスできる」	性別、年齢、障がいの有無、経済的事情、地域事情等、それぞれが置かれた状況によって、スポーツに取り組むことを諦めたり、望まずに途中で離れたりすることがないように、全ての人々がスポーツにアクセスできる社会の実現や機運の醸成を目指すこと

出典：第3期スポーツ基本計画（国）

2 施策体系



【コラム②】基本理念とスポーツ推進施策

基本理念である「ころとからだで楽しむ『スポーツシティぎふ』」に基づき、既存の視点である「する」「みる」「ささえる」と新しい視点である「つくる／はぐくむ」「あつまり、ともに、つながる」「誰もがアクセスできる」の6つの視点から地域スポーツ推進の施策へと展開していきます。

本計画では、前期計画から継続している課題や10年後の岐阜市スポーツ推進を見据えたものとして「施策の4つの柱」を定めています。計画期間中は岐阜市の現状と課題を常に把握・分析しながら、有効的で実効性のある施策が実施できるよう地域一体となって重点的に取り組んでいきます。

3 成果目標

市民意識調査アンケートや本市関連計画の指標に基づいて分析し、基本方針の施策ごとに指標項目を設定して、それぞれの施策の展開からスポーツ推進を図ります。

施策	成果目標	現状値	目標値
基本方針（１）スポーツ参画の推進			
施策 1	週 1 回以上スポーツを行う成人の市民の割合	64.8% (R3)	70.0% (R14)
施策 2	週 1 回以上パラスポーツを行う成人の市民の割合	—	40.0% (R14)
施策 3	適正体重（BMI18.5以上25.0未満）を維持する人の割合	73.0% (R1)	85.0% (R7)
基本方針（２）持続可能な競技力の向上			
施策 1	全国大会、国際大会の年間派遣選手	184人 (R3)	500人 (R14)
施策 2	『新しいスポーツ関連イベント』の年間実施回数	—	3回 (R14)
施策 3	オリンピック・パラリンピック出場選手の輩出（計画期間中）	—	15人 (R14)
基本方針（３）地方創生とまちづくり			
施策 1	FC岐阜・岐阜スーパースのプロスポーツ年間平均観客動員数	4,847人 (R3)	9,500人 (R14)
施策 2	全国規模のスポーツイベントの年間実施回数	1回 (R3)	3回 (R14)
施策 3	地域資源を活かしたスポーツイベントの年間実施回数	0回 (R3)	3回 (R14)
基本方針（４）スポーツ環境の整備			
施策 1	屋内外スポーツ施設の年間利用者数	454,138人 (R3)	940,000人 (R14)
施策 2	各スポーツ団体のガバナンスコードのセルフチェック実施率	—	100% (R14)
施策 3	広報活動によるスポーツ情報の周知率	—	100% (R14)

※現状値が明らかでない部分については調査等を実施していきます。

本計画における「スポーツ」の定義

本計画では、健康増進や楽しむことを目的とした「ウォーキング（散歩）」などの運動は、スポーツに含まれますが、生活の上で、単に移動することを目的とした歩行は、本計画ではスポーツに含まれません。

ただし、スポーツは「する」だけでなく、「みる」「ささえる」という関わり方もあります。本計画では、スポーツを「する」「みる」「ささえる」ことを推進する施策を盛り込み、市民の心や身体、住んでいる地域の元気につなげていきます。

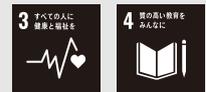
04

第4章 施策の展開

- 1 基本方針(1) スポーツ参画の推進
- 2 基本方針(2) 持続可能な競技力の向上
- 3 基本方針(3) 地方創生とまちづくり
- 4 基本方針(4) スポーツ環境の整備

第4章 施策の展開

基本方針(1) スポーツ参画の推進



子どもから高齢者までライフステージに応じたスポーツ活動を推進していきます。

● 施策概要

あらゆる市民が、それぞれの多様なライフスタイルでスポーツやレクリエーションに親しみ、楽しむことで、途切れることなく継続して生涯にわたり健康と生きがいづくりにつながる活力に満ちた長寿社会の実現を目指します。

● 現状と課題

子どもの体力水準については、近年のビデオゲームやスマートフォン利用の増加など外遊びをする機会の減少により低下傾向にあります。また、国や県の平均値より下回る年もあるため、体力強化に取り組む必要があります。

働く世代・子育て世代については、日頃から運動・スポーツに取り組むことが困難な方でも参加できるイベントの開催や、ニーズに応じた環境づくりを図り、心身の健康を高めることに加え、高齢期の運動の習慣化につなげます。

高齢者については、介護予防や健康寿命の延伸に加え、生きがいづくりや仲間との交流の場としてスポーツを実施する機会を創出します。

パラスポーツ²⁾については、近年は競技性が向上しており、福祉の観点のみならずスポーツの観点からも推進していく必要があります。一方で、パラスポーツを行う環境はまだ十分には整っておらず、環境づくりを充実させるとともに、障がいの有無に関わらず地域でパラスポーツを通じて交流が生まれる体制づくりが必要となります。

また、エビデンスに基づいた安全で効果的な健康増進活動を市民に分かりやすく広報し、普及啓発を図ります。

《主な取り組み》

- | | | |
|------|-----------|--------------------------|
| 施策 1 | 生涯スポーツの推進 | ⇒ライフステージ別施策の展開 |
| 施策 2 | パラスポーツの推進 | ⇒パラスポーツへの参画機会の創出 |
| 施策 3 | 健康増進の取り組み | ⇒健康増進に関するエビデンスに基づくスポーツ活動 |

2) パラスポーツ：障がいのある人のために考えられたスポーツや障がいの有無に関わらず取り組めるスポーツについて広く表す言葉です。(出典：JPSA「2030年ビジョン」)

施策 1 生涯スポーツの推進

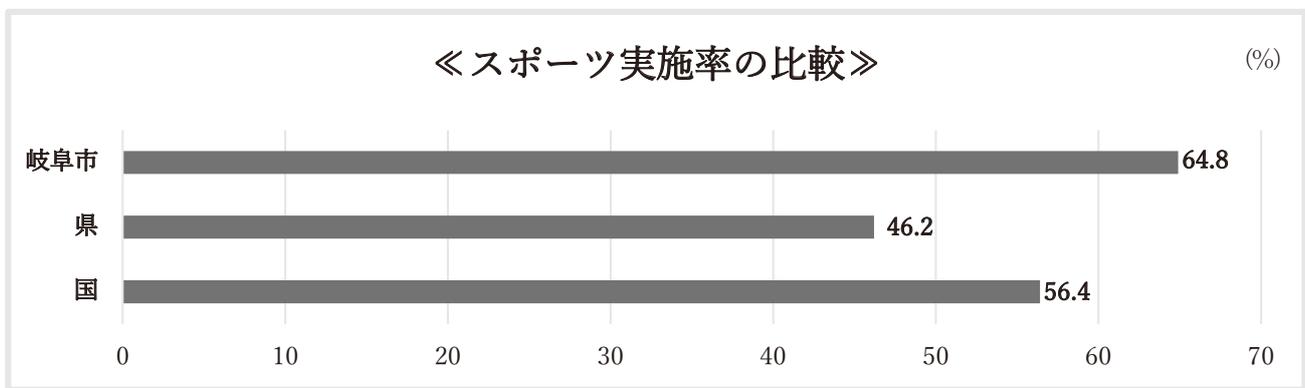
ライフステージ別施策の展開

【施策目標】

成果目標	現状値	目標値
週1回以上スポーツを行う成人の市民の割合	64.8% (R3)	70.0% (R14)

○成果目標は国の「第3期スポーツ基本計画」に基づいて70%とし、ライフステージ別に現状や課題を分析し、施策に取り組んでいきます。

【スポーツ実施率の比較（国・県・岐阜市） R3年度】



本市のスポーツ実施率は、国や県と比較しても上回っており、本計画も継続してスポーツ実施率の向上を目指します。

【ライフステージ別の取り組み】

だれもが、いつでも、どこでも、いつまでもスポーツに親しめる
「生涯スポーツ社会の実現」

幼児

- 外遊びを中心に基礎運動を身につける

青少年

- 学校体育を通じた体力・仲間づくり
- スポーツへの興味・関心を高め、スポーツ習慣を形成

成人

- スポーツによる健康管理
- 多様なスポーツ活動の日常化
- 仲間との交流を通じたコミュニティの形成

高齢者

- スポーツによる自立と健康の保持増進
- 生きがいつくり

きっかけづくり・体力づくり

仲間づくり

健康づくり・生きがいつくり

幼 児

《アクティブ・チャイルド・プログラム (ACP)*の活用》

※アクティブ・チャイルド・プログラム (Active Child Program)

日本スポーツ協会が開発し、普及を進めているもので、子どもが発達段階に応じて身につけておくことが望ましい動きやからだを操作する能力を獲得し、高めるための運動プログラムのこと。

- 子どもたちが楽しみながら積極的にからだを動かせるACPを活用することで、幼少期のスポーツへの関わりを高めます。
- 親子で参加できる運動・スポーツ教室等の拡充により、幼児・成人のスポーツ参画を促進します。

青 少 年

《学校体育・地域スポーツの振興》

- 講習会等により体育教員の指導力向上を図り、ICT³⁾を活用した授業の実践など学校体育の充実を目指します。
- トップアスリートや優れた指導者による体育の授業や運動部活動への出張指導を実施します。
- 運動部活動の段階的な地域移行について、スポーツ環境を整備した上で「部活動改革」と「スポーツの機会の維持」の両立を目指します。

《スポーツ少年団や総合型地域スポーツクラブの取り組み》

【岐阜市スポーツ少年団】

昭和40年に市全域を対象として発足し、加入団員の増加により、各小学校区に一つの単位団が結成されました。小学校単位を基本とした44団16種目(令和4年度)が活動しており、スポーツの持つ教育的な機能を活かし、スポーツ活動を通じた青少年の健全育成を目的としています。



スポーツ少年団の活動

【総合型地域スポーツクラブ】

生涯スポーツ社会の実現に向けた地域におけるスポーツ環境整備のために設立しました。小・中学校単位を基本とした6クラブ(令和4年度)が活動しており、学校外でのスポーツ環境の整備を図ります。

スポーツ少年団、中学校部活動、地域体育振興会等と連携したり、各種スポーツ教室やイベントを開催したりするなどして地域のスポーツ振興をつなぐ役割を担っています。

【コラム③】運動部活動の地域移行

少子化に伴い将来にわたり子どもたちがスポーツに継続して親しむことができる機会を確保するため、まずは休日の運動部活動について、学校や地域の実情を踏まえながら令和5年度の開始から3年後の令和7年度末を目途に段階的に地域に移行されます。

平日の運動部活動の地域移行については、休日の地域移行の進捗状況等を検証しながら推進していきます。

3)ICT:「Information and Communication Technology (情報通信技術)」の略で、通信技術を活用したコミュニケーションを指します。情報処理だけではなく、インターネットのような通信技術を利用した産業やサービスなどの総称です。

成人

《働く世代・子育て世代のスポーツ推進》

- 働く世代のビジネスパーソンが、忙しい中でも気軽にスポーツを取り込める機会を創出するため、日々の通勤やすきま時間の中でできる運動をとり入れます。
- 子育てで忙しい世代に向けて、親子で一緒に運動できる機会を創出します。

《体力づくりやコミュニケーションを目的とした運動の推進》

- 健康管理や体力づくりのための運動の推進として、ジョギング、ウォーキング、トレーニングなど一人で気軽かつ日常的に取り組むことができる運動の習慣化を図ります。
- WEBを活用したオンラインによる取り組みで多様な主体のスポーツ参画を促進します。



スポーツ交流センター（トレーニングルーム）

高齢者

《スポーツによる健康増進》

- 一人でも場所や時間に制限されずに取り組むことができるウォーキングや体操等の機会創出により健康増進を図ります。
- 福祉施設等の高齢者向け健康運動教室を実施し、体力づくりやスポーツへの関心の向上に努めます。

【コラム④】第37回全国健康福祉祭ぎふ大会

第37回全国健康福祉祭（愛称：ねんりんピック）が令和7年度に岐阜県で開催されることが決定しました。本大会の開催により、子どもから高齢者まであらゆる世代の県民が、スポーツやレクリエーションを楽しむことで、生涯にわたる健康と生きがいづくりにつなげ、健康で活力に満ちた長寿社会の実現を目指します。

施策 2 パラスポーツの推進

パラスポーツへの参画機会の創出

【施策目標】

成果目標	現状値	目標値
週1回以上パラスポーツを行う成人の市民の割合	—	40.0% (R14)

○障がいの有無に関わらず「する・みる・ささえる」の視点からパラスポーツを推進します。

《パラスポーツを「する」》

- ・障がい者スポーツ教室等を開催するとともに、障がい者スポーツ指導員の養成等を実施するなどパラスポーツの裾野拡大を図ります。
- ・パラスポーツ体験会や講習会を通じて、パラスポーツの振興及び普及啓発につなげます。
- ・障がいのある人もない人も一緒にスポーツをする機会を創出するため、既存事業や新規事業に積極的に参加できる仕組みづくりを構築します。

《パラスポーツを「みる」》

- ・パラスポーツを観戦・応援することで、パラスポーツへの興味や関心を喚起するとともに、ダイバーシティの推進につなげます。
- ・パラリンピックやデフリンピック等の国際大会の観戦を促し、パラトップアスリートの情報を広く周知し、気運の醸成に努めます。

《パラスポーツを「ささえる」》

- ・パラスポーツ競技団体主催の大会やイベント運営へのボランティア活動の協力等により、競技やパラアスリートとの関わりや地域との交流のきっかけを生み出します。
- ・パラスポーツ競技の指導者の発掘、育成、確保により、パラスポーツ競技人口の拡大を図ります。

施策 3 健康増進の取り組み

健康増進に関するエビデンスに基づくスポーツ活動

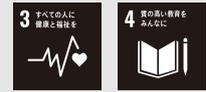
【施策目標】

成果目標	現状値	目標値
適正体重 (BMI18.5 以上 25.0 未満) を維持する人の割合	73.0% (R1)	85.0% (R7)

出典：第四次ぎふ市民健康基本計画

○エビデンスに基づいた安全で効果的な健康増進活動を市民に分かりやすく広報し、普及啓発を図ります。

基本方針 (2) 持続可能な競技力の向上



優れた能力を持つアスリートを見出し、育成・強化する仕組みを構築します。

● 施策概要

アスリートの発掘・育成・強化に関して、アスリートが競技開始からトップレベルに至るまでの道筋の整備を進める必要があります。

「ぎふ未来トップアスリート育成プロジェクト」の構築により、オリンピック・パラリンピックをはじめとした国際大会や全国大会等に出場する選手が発掘され、将来的にはトップアスリートとして地域に還元できるような好循環の創出を目指します。



強化指定選手認定証授与式

● 現状と課題

昨今、指導者の高齢化が進んでおり、若い世代の指導者が少ない現状となっています。また近年では、東京2020オリンピックで話題となったアーバンスポーツ等、「新しいスポーツ」に関心を持ったり、取り組んだりする市民が増えてきています。

課題としては、競技人口の拡大、指導者の養成、競技団体の運営基盤の強化などが求められます。指導者の確保として、現役を引退したアスリートが指導する機会を創出し、知識や技術、経験の地域還元を可能とする仕組みづくりにも注力していきます。

学校や教育委員会との連携は必要不可欠であり、スポーツ協会とも連携し、ライフステージ別のスポーツの充実と並行して競技力の向上を図ります。

《主な取り組み》

- | | | |
|------|-----------------|-----------------------|
| 施策 1 | アスリート育成パスウェイの構築 | ⇒ぎふ未来トップアスリート育成プロジェクト |
| 施策 2 | 新しいスポーツへの対応 | ⇒アーバンスポーツ等の普及啓発 |
| 施策 3 | アスリートの支援体制強化 | ⇒組織体制の強化とスポーツ競技力向上 |

施策 1 アスリート育成パスウェイの構築

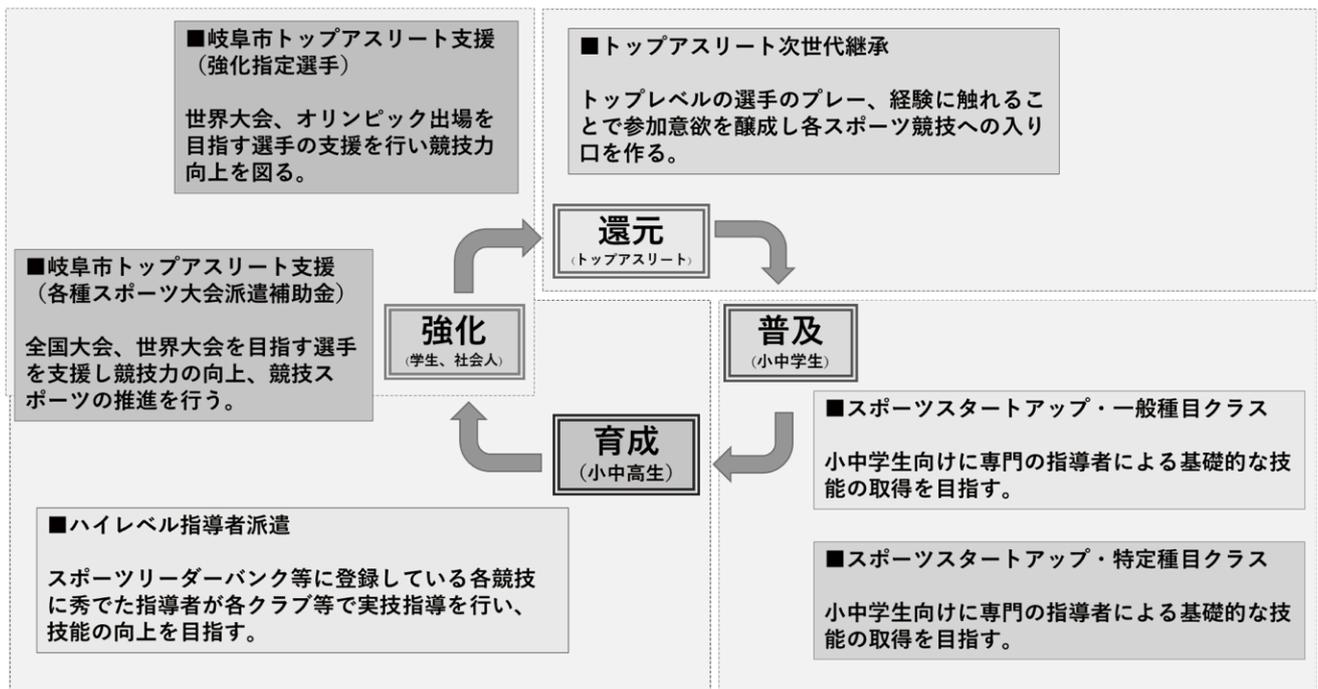
ぎふ未来トップアスリート育成プロジェクト

【施策目標】

成果目標	現状値	目標値
全国大会、国際大会の年間派遣選手	184人 (R3)	500人 (R14)

- 本プロジェクトでは、岐阜市におけるスポーツ振興の循環を作ることを目指します。
- 東京 2020 オリンピック・パラリンピックの開催をきっかけに生まれたレガシーを市のスポーツ振興に活用することとし、オリンピック・パラリンピック等の国際大会に出場した選手自身の経験、スポーツの楽しさを次世代へ伝えてもらうことで、スポーツ参画への意識向上を図ります。

【ぎふ未来トップアスリート育成プロジェクト（イメージ図）】



【普及】小中学生の普及期からスポーツを始めることができる施策を実施します。

【育成】中高生などの育成時期に大会派遣補助などの支援を行います。

【強化】世界レベルのアスリートを目指すことができる有望選手を強化指定選手として認定します。

【還元】岐阜市ゆかりの選手から国際大会などに出場できる選手を輩出・支援します。

● 前計画期間中における各事業の成果・推移

①スポーツスタートアップ（旧ジュニアスポーツクラブ／アビリティアップクラブ）受講者

	2015年度 (平成27年度)	2016年度 (平成28年度)	2017年度 (平成29年度)	2018年度 (平成30年度)	2019年度 (令和元年度)	2020年度 (令和2年度)	2021年度 (令和3年度)
一般種目クラス(人)	903	1,179	1,098	1,048	1,208	中止	417
特定種目クラス(人)	65	59	50	53	60	41	53

②ハイレベル指導者派遣（旧スポーツリーダー活用事業）

	2015年度 (平成27年度)	2016年度 (平成28年度)	2017年度 (平成29年度)	2018年度 (平成30年度)	2019年度 (令和元年度)	2020年度 (令和2年度)	2021年度 (令和3年度)
派遣指導者数(人)	88	82	89	99	106	75	25
実施回数(回)	111	109	115	126	149	94	50
受講者(人)	6,336	5,898	6,004	7,151	8,687	6,073	1,008

③各種スポーツ大会派遣補助金（岐阜市トップアスリート支援）

	2015年度 (平成27年度)	2016年度 (平成28年度)	2017年度 (平成29年度)	2018年度 (平成30年度)	2019年度 (令和元年度)	2020年度 (令和2年度)	2021年度 (令和3年度)
補助交付件数(件)	84	113	116	96	67	14	58
補助交付人数(人)	316	324	424	337	267	58	184
補助金額(円)	4,765,000	5,220,000	6,125,000	5,215,000	4,165,000	825,000	2,800,000

④強化指定選手（岐阜市トップアスリート支援）

	2015年度 (平成27年度)	2016年度 (平成28年度)	2017年度 (平成29年度)	2018年度 (平成30年度)	2019年度 (令和元年度)	2020年度 (令和2年度)	2021年度 (令和3年度)
強化指定選手(人)	6	8	10	10	12	13	13
補助金額(円)	1,567,813	2,400,000	2,879,000	2,847,000	3,496,000	2,274,000	0

【コラム⑤】スポーツ関連の市民栄誉賞受賞者（平成28年以降）

●^{かねとう}^{りえ} 金藤 理絵 氏（表彰日／平成28年9月14日）【競泳】

不屈の精神をもって挑戦し続け、リオデジャネイロオリンピック競泳女子200m平泳ぎにおいて、金メダルを獲得されました。

●^{ふくしま}^{ゆき} 福島 由紀 氏（表彰日／令和3年10月1日）【バドミントン】

廣田選手と「フクヒロペア」として第110回全英オープンで優勝。東京2020オリンピックバドミントン女子ダブルスにおいて5位入賞されました。

●^{ひろた}^{さやか} 廣田 彩花 氏（表彰日／令和3年10月1日）【バドミントン】

福島選手と「フクヒロペア」として第110回全英オープンで優勝。東京2020オリンピックバドミントン女子ダブルスにおいて5位入賞されました。

●^{まつばら}^{りえ} 松原 梨恵 氏（表彰日／令和3年11月16日）【新体操】

東京2020オリンピック新体操団体総合で8位入賞され、ロンドン、リオデジャネイロ大会に続き、3大会連続入賞を果たされました。

●^{むらせ}^{こも} 村瀬 心椛 氏（表彰日／令和4年7月1日）【スノーボード】

北京冬季オリンピックスノーボード女子ビッグエアにおいて、冬季五輪では日本女子最年少メダルとなる銅メダルを獲得されました。

施策 2 新しいスポーツへの対応

『アーバンスポーツ』等の普及啓発

【施策目標】

成果目標	現状値	目標値
『新しいスポーツ関連イベント』の年間実施回数	—	3回 (R14)

- アーバンスポーツは、従来のスポーツや運動の枠組みに縛られない遊び感覚のアクティビティとして若者や子どもを中心に広がりを見せており、新しいスポーツの普及啓発にも柔軟に対応します。
- 近年、スケートボードやBMXなどがオリンピック種目として新たに採用されており、オリンピック出場を目指す選手の支援も行っています。

● アーバンスポーツの定義

アーバンスポーツとは「エクストリームスポーツ⁴⁾の中で都市での開催が可能なもの」として、音楽、ファッションなど遊び感覚の高い若者文化とともに進化するものと捉えることができます。(スポーツクライミング、スケートボード、BMX、パルクール等)



スケートボード

● アーバンスポーツに取り組む背景

東京 2020 オリンピックにスケートボード等の種目が採用されメダルを獲得するなど、若者を中心にアーバンスポーツの人气が上昇しています。

● アーバンスポーツの特徴

音楽やファッション、アートなど若者文化が融合したものとして従来の枠を超えた領域に展開するものであり、スポーツという側面だけでなく、遊び、カルチャーの延長線上としても捉えられています。

子どもからプロのアスリートまで、皆が同じフィールドで練習するなど、あらゆる世代が一緒に取り組める良さがあると考えられます。

【コラム⑥】「新しいスポーツ」と「新しい視点」

アーバンスポーツは「つくる／はぐくむ」の新しい視点から今後「場づくり」「環境づくり」を図り、若い世代を中心に市民へ浸透していくことでスポーツ振興に寄与するものと考えられます。

また、先の東京 2020 オリンピックにおいて、アーバンスポーツが人々にもたらした感動は「あつまり、ともに、つながる」という視点を象徴するものでした。環境整備が実現することで「誰もがアクセスできる」といった新しい視点へとつながっていく可能性を内包しています。

一方、身体活動を伴う仮想(バーチャル)スポーツや身体活動は伴わないが、スポーツの定義である個人や集団で行われる競技である e スポーツについては国等での議論や国民のコンセンサスの形成などを注視しつつ本計画に盛り込む等、検討していきます。

4) エクストリームスポーツ：過激な速度や高度をはじめ、物理的に難易度が高い目標などに挑戦する、危険性の高いスポーツの総称。(別称：アクションスポーツ、Xスポーツ)

『e スポーツ』の可能性の模索

- コンピューターゲームやビデオゲームを使った対戦をスポーツ競技として捉えるeスポーツは、世界中で盛り上がりを見せており、近年、日本でも注目を集めています。
- 年齢や性別、国籍、障がい等の有無にかかわらず誰でも参加し、楽しむことができる「ユニバーサルスポーツ」としての特徴があります。

● 現 状

大会名	実施状況	概要
国民体育大会	文化プログラム ⁵⁾ として開催	愛媛大会(2017年)、福井大会(2018年)、茨城大会(2019年)、鹿児島大会(2020年)で開催。 ※茨城大会(2019年)から「全国都道府県対抗eスポーツ選手権」として開催されている。
アジア競技大会	正式種目として決定	ジャカルタ大会(2018年)の「デモンストレーション競技」として実施。 杭州大会(2023年に開催延期)から正式種目となり、「マインドスポーツ ⁶⁾ 」として実施予定。
オリンピック	将来の正式種目として期待	オリンピック・バーチャルシリーズ(2021年)として国際オリンピック委員会(IOC)が各国際競技連盟と初めて主催した公式eスポーツ大会が開催される。

● 課 題

ゲーム依存による健康面への影響や暴力的要素による青少年の健全育成への影響が懸念されます。

● 地域活性化の活用事例

介護や認知症の予防、若者と高齢者のコミュニケーションを通じた世代間の交流、子どものプログラミング教育などeスポーツの特性を活かした取り組みが期待されます。

● 今後の展開

eスポーツが持つ効果や課題を考慮した上で、新たな観点からスポーツ参画のかたちを研究し、あらゆる活用の可能性を模索していきます。

5)文化プログラム：開催県における国体開催の気運醸成を目的として、スポーツ文化や開催県の郷土文化等をテーマとして開催されるイベントの総称。

6)マインドスポーツ：高い思考能力を用いて競われるゲーム(チェス・将棋・囲碁など)を一種の「スポーツ」と見なしたものの。頭脳スポーツとも呼ばれています。

施策 3 アスリートの支援体制強化

組織体制の強化とスポーツ競技力向上

【施策目標】

成果目標	現状値	目標値
オリンピック・パラリンピック出場選手の輩出（本計画期間中）	—	15人（R14）

- アスリートを支援する岐阜市スポーツ協会の組織を強化し、本市のスポーツ競技力の向上を図ります。
- 岐阜市スポーツ協会は、スポーツの普及・振興を図り、市民の体力向上とスポーツ精神を養うことを目的として設立されました。前身の『岐阜市体育協会』は、昭和22年に発足し、令和2年4月1日から現名称に変更されました。事務局を市民スポーツ課に置き、下記の加盟団体（38競技団体と4社会団体）の協力のもと岐阜市民スポーツ大会を岐阜市スポーツ協会の主催事業として開催しています。
- また、岐阜市と連携し、共催事業、主管事業として、新春ぎふシティマラソンなどの行事の開催、前述のスポーツスタートアップなど次世代の選手育成に力を注いでいます。スポーツ大会への選手団の派遣や指導者講習会の実施など本市へのスポーツ振興の中核的役割も担っています。

【今後の展開について】

スポーツに継続して親しむ機会の確保として、競技力を高める取り組みや組織体制等を関係団体とともに研究し、オリンピック・パラリンピックや国体等を目指す選手の輩出と全体のレベル向上を図ります。

加盟団体一覧

【競技団体】

- ・岐阜市水泳協会
- ・岐阜市サッカー協会
- ・岐阜支部柔道連盟
- ・岐阜市自転車競技連盟
- ・岐阜市バレーボール協会
- ・岐阜県剣道連盟岐阜支部
- ・岐阜市ソフトボール協会
- ・岐阜市弓道協会
- ・岐阜市スキー協会
- ・岐阜市アーチェリー協会
- ・岐阜市ウエイトリフティング協会
- ・岐阜市フォークダンス連盟
- ・岐阜市フェンシング協会
- ・岐阜市山岳協会
- ・岐阜市テニス協会
- ・岐阜市バドミントン協会
- ・岐阜市ソフトテニス連盟
- ・岐阜市ハンドボール協会
- ・岐阜市卓球協会
- ・岐阜市レスリング協会
- ・岐阜市相撲連盟
- ・岐阜県銃剣道連盟岐阜支部
- ・岐阜市ホッケー協会
- ・岐阜市ライフル射撃協会
- ・岐阜市ゲートボール協会
- ・岐阜市グラウンド・ゴルフ協会
- ・岐阜市陸上競技協会
- ・岐阜市バスケットボール協会
- ・岐阜市体操協会
- ・岐阜市軟式野球連盟
- ・岐阜市アマチュアボクシング連盟
- ・岐阜市クレイ射撃協会
- ・岐阜市ラグビーフットボール協会
- ・岐阜市スケート協会
- ・岐阜市空手道連盟
- ・岐阜市なぎなた協会
- ・岐阜市ボウリング連盟
- ・岐阜市少林寺拳法協会

【学校スポーツ団体・友好団体】

- ・岐阜市中学校体育連盟
- ・岐阜地区高等学校体育連盟
- ・岐阜市スポーツ少年団本部
- ・岐阜市スポーツ推進委員連絡協議会

基本方針 (3) 地方創生とまちづくり



プロスポーツ振興と地域独自のスポーツ振興により好循環を創出します。

● 施策概要

地域に根差したプロスポーツなどのホームタウンチームと連携した取り組みの充実により、シビックプライド⁷⁾の醸成や地域活性化を図ります。

また、地域ならではの恒例イベントや観光資源を活かしたスポーツツーリズム⁸⁾の実施など本市の特色や地域資源を活かした取り組みの拡充を図ります。

● 現状と課題

市民意識調査アンケートでは、スポーツ観戦について、テレビやインターネット等のメディアで観戦したことがあると答えた人が82.8%いる一方で、現地に出向き競技場や施設などで観戦したことがあると答えた人は14.9%にとどまり、62.9%の人が「そのスポーツが好きだから」を観戦した理由としています。

トップアスリートやトップレベルの競技チームを現地で観戦できる機会の創出としてプロスポーツとの連携事業を推進し、全国大会等の大規模スポーツイベントの誘致、ホームタウンチームの浸透などを図りながら、市民がスポーツの魅力を感じることで「みる」スポーツの環境づくりが必要となります。



高橋尚子杯ぎふ清流ハーフマラソン

《主な取り組み》

- | | | |
|------|----------------|----------------------|
| 施策 1 | プロスポーツ振興 | ⇒プロスポーツを活用した地域活性化 |
| 施策 2 | スポーツイベントの実施 | ⇒魅力あるイベントの拡充による地域活性化 |
| 施策 3 | スポーツブランディングの拡充 | ⇒地域資源を活かした取り組みの拡充 |

7)シビックプライド：「都市に対する市民の誇り」のことを言います。「これまで永年にわたって積み重ねてきた歴史的な風土性や文化、先人たちの過去の記憶に敬意を払いながら、市民ひとりひとりがこれからも岐阜の地で楽しく豊かに暮らし続けていくための原動力となる、人々の誇り・思い・心意気のこと」。(出典：岐阜市「シビックプライドプレイス」)

8)スポーツツーリズム：スポーツ観戦のために旅行したり、スポーツイベント参加のために観光地を訪れたりといった、スポーツにかかわる旅行全般のこと。Jリーグやプロ野球ファンの泊まりがけの観戦などがこれにあたります。また、スポーツツーリズムは地域活性化と深くかかわっているのが特徴です。

施策 1 プロスポーツ振興

プロスポーツを活用した地域活性化

【施策目標】

成果目標	現状値	目標値
FC 岐阜・岐阜スүүプスのプロスポーツ年間平均観客動員数	4,847 人 (R3)	9,500 人 (R14)

- プロスポーツのホームタウンチームであるFC岐阜や岐阜スүүプスが
行っている地域貢献活動を支援し、本市が誇るスポーツ資源を活かした
スポーツによる“まちづくり”を推進します。
- FC岐阜のホームタウンデー開催や岐阜スүүプスとの連携事業により
シビックプライドの醸成を図り、活力ある地域社会の形成を目指します。



FC 岐阜
©Kaz Photography/FC GIFU

● プロスポーツの「する・みる・ささえる」

プロスポーツチームとの連携事業を「する・みる・ささえる」の視点から捉えて、市民のスポーツへの関心を高めるとともに、参画機会を創出することで、地域活性化や経済効果の波及を図ります。

《スポーツを「する」》

- ・FC岐阜、岐阜スүүプスのスクール活動、スポーツ教室の開催により児童・生徒のスポーツへの参加を促進します。
- ・トップアスリート次世代継承、ハイレベル指導者派遣等の実技指導によりトップアスリート事業を拡充し、競技力の向上を図ります。

《スポーツを「みる」》

- ・プロスポーツ観戦による認知度の向上を図るとともに、スポーツへの関心を高め、「する」「ささえる」スポーツへの展開を促進します。
- ・観戦することで生じる経済効果により地域活性化を図るとともに、本市の魅力をシティプロモーション活動で促進します。



岐阜スүүプス
写真提供 HARUKI OMAE

《スポーツを「ささえる」》

- ・ホームゲーム等のボランティアやおもてなし活動等による市民参画の機会を捉え、スポーツボランティアの魅力を広く普及啓発します。

施策 2 スポーツイベントの実施

魅力あるイベントの拡充による地域活性化

【施策目標】

成果目標	現状値	目標値
全国規模のスポーツイベントの年間実施回数	1回 (R3)	3回 (R14)

- 魅力的なスポーツイベントを実施することで、スポーツによる地域活性化とともに市民の運動機会の創出等を図ります。
- 若年層のスポーツ離れを防ぐため、アーバンスポーツ等の魅力的なイベントを計画します。
- 軽スポーツ・ニュースポーツを中心としたスポーツイベントを実施することにより、スポーツ・レクリエーションへの参画を促し、運動の機会を創出します。
- レクリエーションを普及啓発する団体と連携し、広くレクリエーション活動を周知します。
- 軽スポーツ・レクリエーション用具の貸し出しやレクリエーション指導者派遣等の有効活用により、レクリエーション活動への参画機会を創出します。



新春ぎふシティマラソン



岐阜市スポーツ・レクリエーション祭

施策 3 スポーツブランディングの拡充

地域資源を活かした取り組みの拡充

【施策目標】

成果目標	現状値	目標値
地域資源を活かしたスポーツイベントの年間実施回数	0回 (R3)	3回 (R14)

- 魅力のある地域スポーツイベントを実施することで、地域ブランドの確立を目指し、スポーツ参画の底上げを図ります。
- スポーツイベント等によるシティプロモーションを通じたアプローチなど、本市の観光資源を活かしたスポーツツーリズムを推進します。

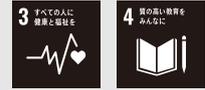
【コラム⑦】クアオルト®健康ウォーキング

クアオルト健康ウォーキングはドイツのクアオルト（健康保養地）で心筋梗塞、狭心症のリハビリ、高血圧症、骨粗しょう症等のための運動療法として行われているウォーキングを基に、考察された健康づくりのためのウォーキング法です。個々人の体力に応じて安全・効果的な有酸素運動として実践できるよう、あらかじめ計測された山のコースを指導者とともに、心拍数、血圧、体表面温度を計測しながら歩きます。



クアオルト®健康ウォーキング

基本方針（4） スポーツ環境の整備



誰もがスポーツを安心して楽しむことができる施設整備や環境づくりを目指します。

● 施策概要

施設利用者が安全・安心、快適に利用できるように施設の適正な運営管理を行うとともに、施設の改修については、計画的な修繕等に努めます。



もえぎの里多目的体育館

● 現状と課題

経年劣化等による老朽化を防ぐため、個別施設計画に基づいた計画的な改修が必要となります。改修にあたっては、年齢、性別や障がいの有無に関わらず、あらゆる人が安全かつ快適にスポーツを楽しむことのできる施設にすることに努めます。

また、市民ニーズを捉えながら、既存施設の整備にも努め、新しいスポーツ（アーバンスポーツ等）への対応も視野に入れ、施設のあり方も検討していきます。



長良川公園 スケートボードパーク

《主な取り組み》

- | | | |
|------|------------------|----------------------------|
| 施策 1 | スポーツ施設の整備 | ⇒既存施設の市民ニーズに応じた施設整備と利便性の向上 |
| 施策 2 | クリーンでフェアなスポーツの推進 | ⇒安心してスポーツを楽しめる環境の整備 |
| 施策 3 | DX 推進、SNS 等の広報活用 | ⇒デジタル技術の有効活用と情報発信の拡充 |

施策 1 スポーツ施設の整備

既存施設の市民ニーズに応じた施設整備と利便性の向上

【施策目標】

成果目標	現状値	目標値
屋内外スポーツ施設の年間利用者数	454,138人 (R3)	940,000人 (R14)

○老朽化対策としてスポーツ施設の長寿命化を図り、市民ニーズに応じた施設の管理・運営に努めます。

○ICTを活用したキャッシュレス決済の導入など利便性を高めることで、施設の利用を促します。

○岐阜ファミリーパークは、総合スポーツ公園化に向けた検討が進められています。

【スポーツ施設】

<令和5年3月現在>

有料施設		無料施設	
野球場	体育館	野球場	ソフトボール場
1 岐阜市民球場	1 総合体育館	1 日置江球場	1 旦島球場
2 ハッ草球場	2 体育ルーム	2 江崎第1球場	2 江崎（C）球場
3 岐阜ファミリーパーク球場	3 岐陽体育館	3 江崎第2球場	3 溝口第2球場
テニスコート		4 江崎第3球場	4 次木（A・B）球場
1 早田テニスコート	4 南部スポーツセンター	5 江崎（A・B）球場	5 中屋球場
2 木ノ下テニスコート	5 北部体育館	6 溝口第1球場	
3 岐阜ファミリーパークテニスコート	6 東部体育館	7 次木球場	
4 加納公園テニスコート	7 西部体育館	8 則松球場	
5 野一色テニスコート	8 北西部体育館	多目的運動場	
6 厚八テニスコート	9 岐阜ファミリーパーク体育館	1 フィールドかけぼら	1 加納テニスコート
7 境川緑道公園テニスコート	10 もえぎの里多目的体育館 （もえぎの里3階含む）	2 諏訪山運動場	2 天満テニスコート
8 リフレ芥見（多目的ドーム）		3 岐陽運動場	3 長良川テニスコート
サッカー・ラグビー場		4 伊自良（C）球場	4 溝口テニスコート
1 岐阜ファミリーパークサッカー・ラグビー場	1 厚八運動場	テニスコート	
2 加納公園グラウンド（クレー）	2 島西運動場	1 鏡島サッカー場A・B	5 板屋テニスコート
3 北西部運動公園AB（芝）	3 高桑運動広場	2 日野サッカー場	6 大縄場テニスコート
4 リフレ芥見 （多目的ドーム・フットサル）	4 坂巻運動広場	3 日置江サッカー場	7 島中央テニスコート
	5 柳津運動場	4 伊自良川サッカー場	8 鳥羽川テニスコート
市民プール			
1 南部市民プール	その他		
2 北部市民プール	1 スポーツ交流センター		
3 本荘市民プール			
4 プラザ掛洞			
5 リフレ芥見（歩行浴プール）			

【コラム⑧】スポーツができる施設を有効活用した事業展開

「岐阜市体育館スポーツ教室」や「体育館デー」、「学校体育施設開放事業」による施設の夜間開放など地域住民が気軽にスポーツを楽しみ、交流の場として活用する事業を積極的に展開します。

施策 2 クリーンでフェアなスポーツの推進

安心してスポーツを楽しめる環境の整備

【施策目標】

成果目標	現状値	目標値
各スポーツ団体のガバナンスコードのセルフチェック実施率	—	100% (R14)

- スポーツの機会提供等の主要な担い手となるスポーツ団体のガバナンス改革・経営力強化を図ることで、市民がスポーツに関わる機会の安定的な確保に資するスポーツ・インテグリティを高め、クリーンでフェアなスポーツの推進に一体的に取り組むことで、スポーツの価値を十分に享受できるよう進めます。
- ガバナンス・コンプライアンス研修等を通じてスポーツ団体の組織運営の透明化を図りつつ、スポーツ団体間の情報共有や外部人材の雇用創出等の支援により、健全な経営を行う組織体制の拡充を図ります。
- スポーツ関係者のコンプライアンス違反や体罰、暴力等の根絶を目指すとともに、スポーツ団体のガバナンスを強化します。

スポーツ団体ガバナンスコード

スポーツの価値を毀損しかねない不祥事の発生を防ぎ、また、スポーツの価値を一層高めていくため、スポーツの普及・振興の重要な担い手となっているスポーツ団体の適正なガバナンスを確保することが必要不可欠であることから策定された原則・規範。

施策 3 DX推進、SNS等の広報活用

デジタル技術の有効活用と情報発信の拡充

【施策目標】

成果目標	現状値	目標値
広報活動によるスポーツ情報の周知率	—	100% (R14)

- デジタル技術を活用した新たなスポーツの取り組みの推進やICT活用によるスポーツ環境の整備・拡充によりスポーツに親しむ機会を創出します。
- 新しいスポーツのあり方の検討やデジタル技術を活用したスポーツの取り組みを推進し、誰もがスポーツに親しむことのできる環境を整備します。

05

第5章

計画の推進に向けて

- 1 各主体の役割
- 2 推進体制
- 3 計画の評価

第5章 計画の推進に向けて

1 各主体の役割

○本計画を推進するためには行政のみならず、市民、地域やスポーツ関係団体、学校、民間企業などが連携・協力を図るとともに、一人一人が主体的なスポーツ推進の担い手となって取り組むことが重要となります。

(1) 市民

スポーツ推進の主役として、ライフステージに応じたスポーツ活動に積極的に参画していくことが期待されます。

(2) 団体

①スポーツ協会

協会に所属する各団体間の連絡調整を行うとともに、市が行うスポーツ推進施策及び事業に協力し、市民一人一人の立場を考えたスポーツ環境をつくることに努めます。

②各種スポーツ関係団体

各団体の特性を生かしながら、年齢や性別、障がいの有無などに関係なく市民一人一人が楽しみながらスポーツを行うことができる場と機会の充実に取り組みます。

③学校

児童・生徒の体力向上や運動機会を確保するために、学校体育や運動部活動の充実に努めます。また、地域スポーツ推進への理解、連携や学校体育施設の開放を行い、地域の身近なスポーツ活動の場を提供します。

(3) 行政

①市民スポーツ課

計画推進の中心となる課として、市のスポーツ推進全体を視野に入れた状況把握及び施策の推進に努めます。また、市民および団体に対する総合的な窓口としての機能を果たします。

②他の関係各課

各分野における施策の方向性とのバランスを取りながら、本計画に位置付けられたスポーツ推進の基本理念を踏まえたスポーツ関連事業を展開します。

(4) その他

①民間企業

民間企業は、地域社会の構成員であるという自覚のもと、民間企業が有する施設・設備や人材、情報などを可能な範囲で、地域のスポーツ活動に提供していくことが期待されます。

②大学

大学が有している人材や施設・設備、情報などの資源を可能な限り、地域のスポーツ活動に提供していくことが期待されているとともに、市内のスポーツ資源を活用して、教育活動を推進していくことも期待されます。

③指定管理者

各施設の利用者とコミュニケーションを取りながら市民ニーズを把握することで、より利用しやすい施設運営に向けた工夫と改善に努めます。また、各種団体との連携によるスポーツイベントやスポーツ教室の開催など、それぞれの施設の人的資源や情報などを活用し、市のスポーツ活性化を図ります。

2 推進体制

(1) 岐阜市スポーツ推進計画の評価

この計画の推進にあたっては、各スポーツ団体との連携を密にし、基本方針ごとの進捗状況を把握するとともに、その成果と課題を岐阜市スポーツ推進計画検討委員会に提案し、委員から評価を受けながら、計画の具現化に向けて必要に応じた見直しを行うなど、本計画の進行管理に取り組んでいきます。

(2) 庁内関係所管との連携

スポーツを推進するためには、生涯学習部門、市民の健康づくりを受けもつ健康部門、高齢者・障がいがある人などを受けもつ福祉部門、青少年の健全育成や学校教育を受けもつ教育部門など、さまざまな部署との連携を図り、「岐阜市スポーツ推進計画」を実行していきます。

(3) 国や県、周辺市町との連携

国や岐阜県との情報共有を図りながら、各種事業などの連携を図り、市民がさまざまなスポーツ活動を行いやすい環境づくりを目指します。また、周辺市町と連携し、大会やイベント等の情報交換などを推進します。

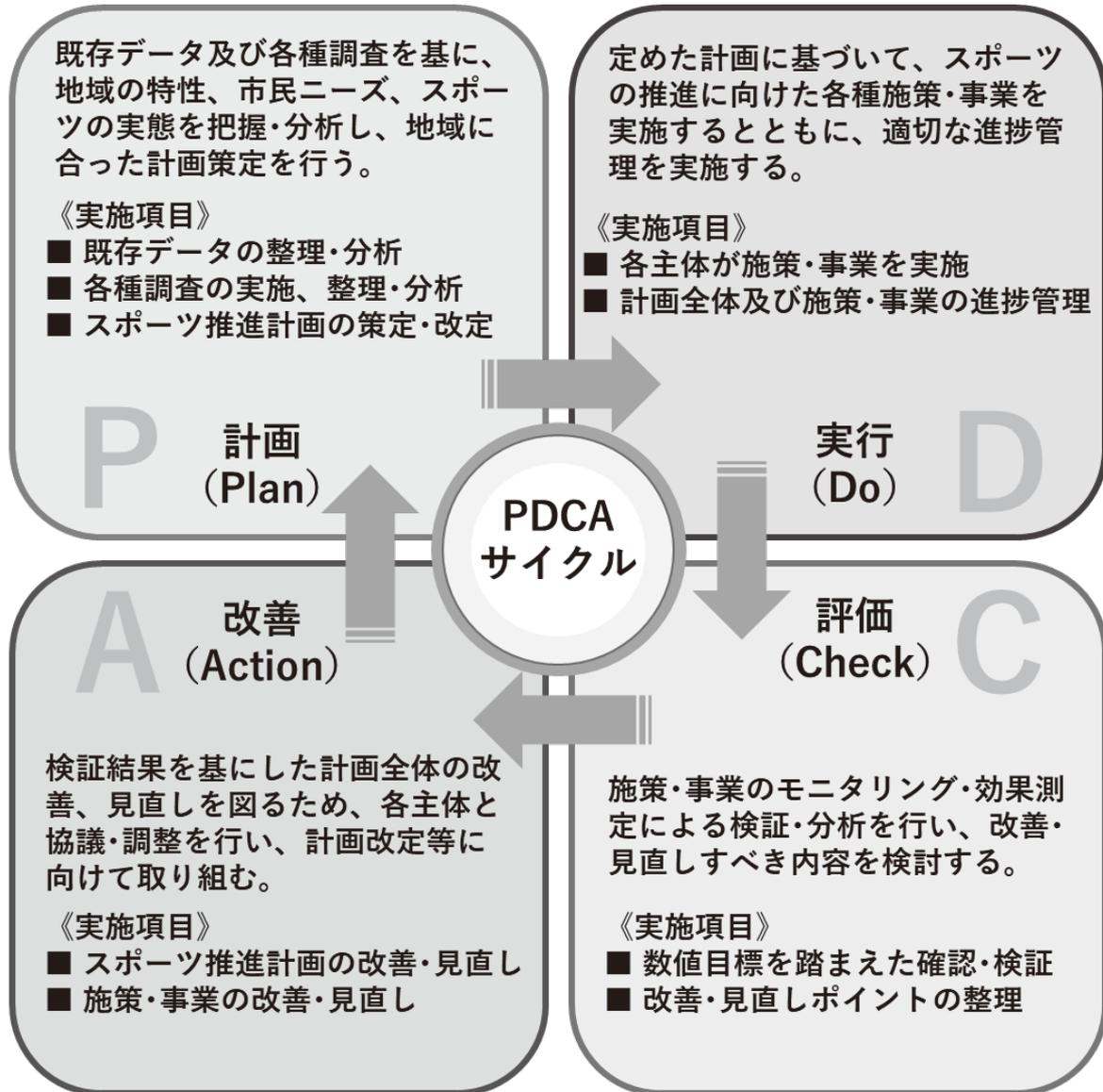
(4) 民間企業・大学等との連携

民間企業や大学等の施設や人材などを活用するなど、民間企業や大学等とも連携を図り、協働して、本計画を推進します。

また、市のスポーツ施設の指定管理者とも連携を図り、民間のノウハウを本計画の推進に活かしていきます。

3 計画の評価

〇市のスポーツ施策の推進には、各施策展開について実効性を確保するための進行管理を行う必要があります。各施策に関して、「計画 (Plan)」「実行 (Do)」「評価 (Check)」「改善 (Action)」のPDCAサイクルを繰り返し行うことで、取り組みの実効性を確保します。



資料編

【計画策定までの経緯】

日 程	主 な 内 容
令和3年 5月19日(水) ～6月1日(火)	市民意識調査アンケート実施
令和3年 11月19日(金)	第1回検討委員会 <ul style="list-style-type: none"> ・委員会の運営方針(委員長・副委員長選出) ・今後の審議日程の説明と現計画の振り返り ・国の計画・方針等による状況の動向について ・市民意識調査アンケートの結果・考察
令和4年 2月24日(木)	第2回検討委員会 <ul style="list-style-type: none"> ・計画の構成、新計画の骨子について ・計画の構成について <ul style="list-style-type: none"> 第1章 計画の概要 第2章 本市のスポーツを取り巻く環境と課題 第3章 計画のコンセプト ～目指す姿～ <ul style="list-style-type: none"> 1 基本理念
令和4年 5月31日(火)	第3回検討委員会 <ul style="list-style-type: none"> ・新スポーツ推進計画(素案)の検討① <ul style="list-style-type: none"> 第3章 計画のコンセプト ～目指す姿～ <ul style="list-style-type: none"> 2 施策体系 3 成果目標 第4章 施策の展開 第5章 計画の推進に向けて
令和4年 8月22日(月)	第4回検討委員会 <ul style="list-style-type: none"> ・新スポーツ推進計画(素案)の検討②
令和4年 11月1日(火) ～11月30日(水)	パブリックコメント実施
令和4年 12月26日(月)	第5回検討委員会 <ul style="list-style-type: none"> ・パブリックコメントの対応 ・新スポーツ推進計画(最終案)の検討

【岐阜市スポーツ推進計画検討委員名簿】

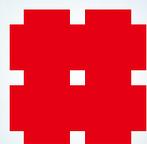
※敬称略、委員は五十音順

役 職	委員名	役職・団体名 等
委 員	あお き ひで ます 青 木 秀 益	岐阜市総合型地域スポーツクラブ連絡協議会 やないづスポーツクラブ運営委員
委 員 長	あり かわ はじめ 有 川 一	中部学院大学スポーツ健康科学部 教授
副委員長	いい ぬま じゅん べい 飯 沼 順 平	一般社団法人 岐阜市医師会 理事
委 員	いし ばし まさ ひで 石 橋 雅 英	一般社団法人 岐阜県障害者スポーツ協会 岐阜県障害者スポーツ指導者協議会 会長
委 員	かわ しま まさ ひろ 河 島 正 弘	公募委員
委 員	すず き かず あき 鈴 木 和 明	岐阜市スポーツ協会 常任理事
委 員	た なか いっ せい 田 中 一 生	株式会社岐阜フットボールクラブ 事業グループリーダー 兼 社会連携グループリーダー
委 員	つじ とも ひで 辻 智 秀	公募委員
委 員	とみ た さとる 富 田 暁	公募委員
委 員	はやし みやこ 林 都	岐阜市スポーツ指導員連絡協議会 副会長
委 員	まつ なみ すず こ 松 波 鈴 子	岐阜市スポーツ推進委員連絡協議会 副会長
委 員	ま なべ りゅう じ 真 鍋 龍 司	岐阜市スポーツ少年団本部 本部長
委 員	むら た めい じ 村 田 明 治	岐阜市小中学校長会 岐阜市立岐阜西中学校 校長
委 員	や じま かず お 矢 島 一 雄	岐阜県ウォーキング協会 幹事

スポーツ関連の市民栄誉賞受賞者

<p>兵藤 ヒデ子（ひょうどう ひでこ）氏 *平成7年2月24日逝去 ベルリンオリンピック200m平泳ぎ競技において「前畑ガンバレ」の声援を背に金メダルを獲得。その後水泳をはじめスポーツ振興の推進に尽力されました。 表彰日/平成3年10月9日</p>
<p>澤田 文吉（さわだ ぶんきち）氏 *平成18年6月12日逝去 ヘルシンキオリンピック陸上競技棒高跳びで6位入賞されました。その後は日本陸上競技連盟や岐阜県体育協会の役員としてスポーツの振興に尽力されました。 表彰日/平成7年4月17日</p>
<p>森 祇晶（もり まさあき）氏 プロ野球選手として8年連続ベストナインに選ばれ、オールスター戦にも11回出場。西武ライオンズ監督としてリーグ優勝8回、日本一6回を果たされました。 表彰日/平成7年4月17日</p>
<p>糸井 統（いとい はじめ）氏 バルセロナオリンピックとアトランタオリンピック水泳背泳ぎ競技において連続入賞されました。 表彰日/平成10年7月1日</p>
<p>勅使川原 郁恵（てしがわら いくえ）氏 長野オリンピック冬季競技大会ショートトラックスピードスケートで3種目入賞されました。 表彰日/平成10年7月1日</p>
<p>若井 敦子（わかい あつこ）氏 バンコク・アジア大会空手道競技個人形の部において難度の高い形「スーパーリンベイ」を完璧に演じ、見事優勝されました。 表彰日/平成11年1月4日</p>
<p>高橋 尚子（たかはし なおこ）氏 バンコク・アジア大会陸上女子マラソン競技において日本最高記録で走り、見事優勝されました。 表彰日/平成11年1月4日</p>
<p>中屋 卯三郎（なかや うさぶろう）氏 岐阜県のソフトテニスの第一人者として活躍する一方、日本選手団の監督を務めるなど国内外においてソフトテニスの普及に貢献されました。 表彰日/平成11年7月1日</p>
<p>杉山 千住（すぎやま ちずみ）氏 *平成20年5月9日逝去 講道館9段に認定されるなど柔道の第一人者として活躍する一方で、岐阜県柔道協会の役員として柔道の普及や選手の育成に尽力されました。 表彰日/平成11年7月1日</p>
<p>高木 守道（たかぎ もりみち）氏 *令和2年1月17日逝去 プロ野球界を代表する野球選手として史上11人目で2000本安打を達成し、名球会入りを果たされました。 表彰日/平成12年7月1日</p>
<p>安藤 美佐子（あんどう みさこ）氏 シドニーオリンピック女子ソフトボール競技において、走攻守三拍子揃った「世界一の遊撃手」として活躍し、銀メダルを獲得されました。 表彰日/平成13年7月1日</p>
<p>藤井 由宮子（ふじい ゆみこ）氏 シドニーオリンピック女子ソフトボール競技において、「針の穴を通すコントロール」を武器として活躍し、銀メダルを獲得されました。 表彰日/平成13年7月1日</p>
<p>和田 一浩（わだ かずひろ）氏 アテネオリンピック野球競技において、日本チームの要として活躍され、銅メダル獲得に大きく貢献されました。 表彰日/平成17年12月21日</p>
<p>永井 清史（ながい きよふみ）氏 北京オリンピック自転車競技男子ケイリンにおいて、この種目では日本勢初のメダルとなる銅メダルを獲得されました。 表彰日/平成20年10月6日</p>
<p>金藤 理絵（かねとう りえ）氏 不屈の精神をもって挑戦し続け、リオデジャネイロオリンピック競泳女子200m平泳ぎにおいて、金メダルを獲得されました。 表彰日/平成28年9月14日</p>
<p>福島 由紀（ふくしま ゆき）氏 廣田選手と「フクヒロペア」として第110回全英オープンで優勝。東京2020オリンピックバドミントン女子ダブルスにおいて5位入賞されました。 表彰日/令和3年10月1日</p>
<p>廣田 彩花（ひろた さやか）氏 福島選手と「フクヒロペア」として第110回全英オープンで優勝。東京2020オリンピックバドミントン女子ダブルスにおいて5位入賞されました。 表彰日/令和3年10月1日</p>
<p>松原 梨恵（まつばら りえ）氏 東京2020オリンピック新体操団体総合で8位入賞され、ロンドン、リオデジャネイロ大会に続き、3大会連続入賞を果たされました。 表彰日/令和3年11月16日</p>
<p>村瀬 心椀（むらせ ここも）氏 北京冬季オリンピックスノーボード女子ビッグエアにおいて、冬季五輪では日本女子最年少メダルとなる銅メダルを獲得されました。 表彰日/令和4年7月1日</p>

岐阜市



問い合わせ先

岐阜市 ぎふ魅力づくり推進部 市民スポーツ課

〒500-8701 岐阜市司町40番地1
TEL: 058-214-2370
FAX: 058-214-2224
E-mail: sports@city.gifu.gifu.jp